

主体的に判断し、安全なまちづくりに貢献する防災教育の推進

芦北町立湯浦中学校教職員一同

19人

活動年数：3年

研究主題
主体的に判断し、安全なまちづくりに貢献できる
生徒の育成

災害の発生

救助活動、避難所生活

- ・ 自助：自分で自分の命を守る
- ・ 共助：周囲の人たちと協力して助け合う
- ・ 公助：公的機関による救助活動等の支援

復旧・復興、安全なまちづくり

主体的に判断し、
安全なまちづくりに
貢献できる生徒

2

令和4・5年度県教育委員会「防災教育研究推進校」の指定を受け、「主体的に判断し、安全なまちづくりに貢献できる生徒の育成」を研究主題として取組を開始し、4年目になります。「自助」から「共助」、そして「公助」へとつなげ、災害時における主体的な判断力・行動力を育成することを目指しています。

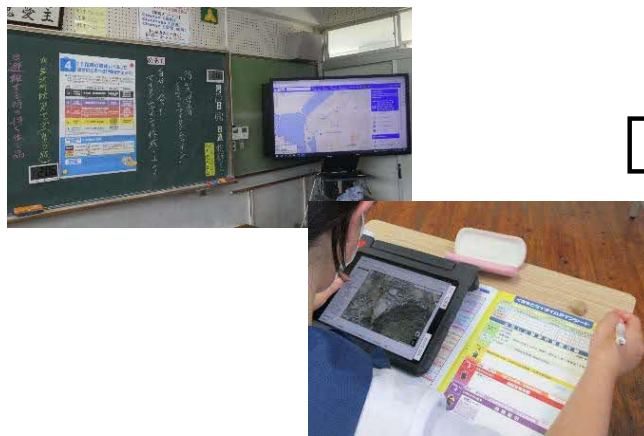
実践的・効果的な避難訓練



【道徳科】熊本地震関連教材「つなぐ」



避難訓練（地震）



【学活】マイタイムラインの活用



避難訓練（土砂災害）

防災意識を高めるために実践的、効果的な避難訓練を行っています。4月の「くまもと防災教育月間」には熊本地震関連教材「つなぐ」を使い学習を行った後、地震の避難訓練を行っています。また、土砂災害を想定した避難訓練の前には、「くまもとマイタイムライン」を使って学習を行います。

実践的・効果的な避難訓練

アクション・カードの配付による役割分担



ドライブスルー方式
の引き渡し訓練



アクションカード①
「職員室」
対策本部設置

・役割分担の指示
(カードを配布)



その後、職員室待機
(電話対応)

アクションカード②
「職員室」



・生徒に連絡 (放送)

(放送内容は裏面)

アクションカード③
「体育館」
・避難ボックスを持って
体育館に移動し、体育
館から携帯電話で連
絡が取れるようにして
おく。



アクションカード⑦-④
「保護者の誘導」



「校門4」

・傘と誘導棒を持って、
校門付近に行き、保護
者の車の交通整理を
行う

(誘導場所は裏面)

アクションカード⑧-1
「保護者の誘導」



「体育館入口」

・傘と誘導棒を持って、
体育館付近に行き、保
護者の車の交通整理
を行う

災害は突然発生します。避難訓練はその場で配られたカードの役割について行動します。訓練後には、反省会を行い、カードの内容について随時見直しをしています。

4

いついかなる災害が発生するか分からないため、訓練の際はあらかじめ役割を決めず、その場でアクションカードを配り役割を決めて動くようにしています。訓練後は必ず反省会を行い、見直しを行っています。また、保育園も含めた中学校区合同の引き渡し訓練も行っています。初年度は課題も多く見られましたが、継続することで改善を図っています。

体験型の防災学習：防災食体験・避難所運営

防災食体験や避難所運営体験を通して、実際の災害時に自分たちの食の確保や、避難してこられた方への手伝いができるようになる。また日頃から防災や減災に関心を持っておくことの重要性に気づくとともに、協力して考え、行動する力を身につける。



防災食体験



避難所運営体験



地域の一員として、安全なまちづくりへの貢献意欲向上

防災食づくりや避難所運営体験、学校行事やPTA活動で保護者や地域の方と行う防災学習を通して、自然災害から自分や周りの人々、地域を守ろうとする態度の育成につなげています。今後も、実践的な避難訓練や防災学習へと見直しを行いながら、地域の一員として安全なまちづくりに貢献したいという生徒の育成に努めていきます。

地域防災活動への参画による児童 生徒の主体性と協働性の育成

球磨村立球磨清流学園教職員一同
28人

活動年数：8年

8か年に及ぶ「くまむら防災教育の日」の取組

「くまむら防災教育の日」

球磨村役場のみならず自衛隊や消防署、警察署、村消防団、DMAT等の関係機関の連携により、児童生徒・保護者・住民が合同で災害を想定した防災学習への取組

年度	取組テーマ	取組内容
平成30年度	地震災害想定訓練	・中学生による避難所運営及び避難所支援訓練、学校栄養職員と陸上自衛隊による共同炊き出し訓練等
令和元年度	地震災害想定訓練	・防災ヘリコプターによる患者搬送 ・小学生のはしご車体験、煙体験等
令和2年度	感染症対策のため自粛	
令和3年度	地震・長雨想定訓練	・住民による陸上自衛隊ヘリコプター・自衛隊車両を使用した避難訓練等
令和4年度	地震災害想定訓練	・中学生による避難所運営及び避難所支援訓練、学校栄養職員と陸上自衛隊による共同炊き出し訓練等
令和5年度	山林火災想定訓練	・DMATによる展示・説明、球磨村アマチュア無線クラブによる展示・説明等
令和6年度	地震災害想定訓練	・地域住民と球磨清流学園9年生が参加したバケツリレーによる消火訓練 ・球磨清流学園6年生による学習発表等
令和7年度	防災教育研究推進校研究発表会11月予定（令和6・7年度県教育委員会指定）	・午前の部に「くまむら防災教育の日」を位置付け、児童生徒と地域住民が一体となった訓練の様子を公開予定 ・午後から公開授業、全体会を実施



2

球磨村は、平成30年度から「くまむら防災教育の日」として、役場のみならず自衛隊や消防署、警察署、村消防団、DMAT等の関係機関の連携により、児童生徒・保護者・住民が合同で災害を想定した防災学習を実施してきました。義務教育学校である「球磨清流学園」も、防災学習を通して児童生徒の主体性と協働性の育成に取り組んできました。

【校内研修における実践的研究】

- ・「状況を的確に捉え、判断し、主体的に行動する児童生徒の育成」
- ・防災学習や避難訓練等を教育課程に位置付け計画的・実践的に推進
- ・行事や児童生徒会の活動に防災の視点を取り入れ、様々な機会・場を通じて、能動的に防災に対応できる能力を育成

（研究部）



【資質・能力の育成を図る授業研究の取組】

- ・教科横断的な資質・能力の育成を目指す単元配列表の作成
- ・子供が問いを持ち、主体的に学ぼうとするための資料提示や課題設定
- ・子供が意図的に表現したり、行動したりする場を授業で設定

（授業研究部）



【主体性を育む自治活動の取組】

- ・児童生徒会を中心に避難訓練等の実施
- ・国交省事務所による出前授業「浸水ドア体験」の実施
- ・避難訓練活動等実施後の縦割り班活動による振り返り（清流タイム）の実施
- ・集団宿泊教室「防災キャンプ」の実施
- ・防災の視点から構成した各専門委員会が行う児童生徒集会の実施

（児童生徒活動部）



球磨村立球磨清流学園

令和6・7年度には県教育委員会から防災教育研究指定を受け、「状況を的確に捉え、判断し、主体的に行動する児童生徒の育成」を研究テーマとして関係機関と連携した防災教育に取り組んでいます。防災学習や避難訓練等を教育課程に位置付けた計画的・実践的な教育を推進しています。行事や児童生徒会の活動に防災の視点を取り入れ、様々な機会・場を通じて、能動的に防災に対応できる能力を育成するよう授業改善などを行っています。

球磨清流学園における防災教育への取組

【地域防災活動へ参画する取組】

(地域連携部)

- ・ 地域人材の活用、行政と連携した取組の実施
- ・ P T A 授業参観及び家庭教育講演会による親子マイタイムライン作成
- ・ 球磨村防災ソフト施策（自主防災組織・防災士等連絡会議、村民防災ブロック会議等）への職員、児童生徒の参加
- ・ 防災通信での校内外への啓発活動

【防災意識を高める環境整備の取組】

(環境整備部)

- ・ 防災に関するアンケートの実施
- ・ 防災意識を高める校内掲示物の工夫



球磨村立球磨清流学園



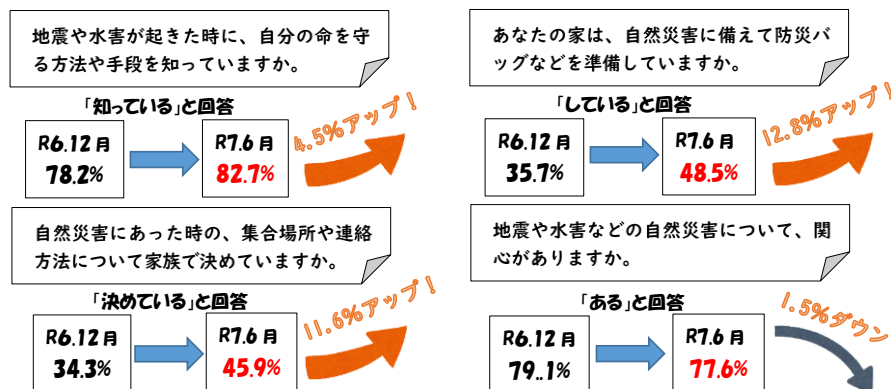
4

また、P T A 授業参観及や家庭教育講演会による親子マイタイムラインの作成、防災通信の発行や防災アンケートの実施、更には防災意識を高める校内掲示に取り組んでいます。

防災教育研究への取組による成果

- ・ 防災に関連のある単元等を連携・配列し、学年間・教科間の系統を考慮した授業を工夫改善
→**教科等横断的な資質・能力の育成**
- ・ 防災学習に児童生徒が目的意識をもって取り組む
→**状況を的確に捉え、判断し、災害時に主体的に適切な行動ができる力**
- ・ 身に付けた確かな知識や判断力、行動力を地域防災活動の中で実践
→**安全・安心な環境づくりに主体的に参画する態度**

【児童生徒のアンケート結果】(令和6年12月→令和7年6月)



球磨村立球磨清流学園

5

この球磨村も、5年前の令和2年7月豪雨において甚大な被害を受けました。そこから防災と向き合い、地域とともに歩んでいます。
児童生徒が自ら考え抜きながら課題解決を図る取組により、災害に備えた準備の意識が12・8パーセントも向上するなどの成果も見られています。

児童一人一人を大切にした学習 指導による学力向上

上天草市立今津小学校教職員一同

34人

活動年数：3年

学習の基盤「七つの聴（キー）」

なな キー
七つの「聴」

- ① 話している人の方を向く。

- ② 聴きながら、「心の中でおしゃべり」をする。

- ③ 聴きながら、「分からないこと」が見つけられる。

- ④ 聴いたことに感想（思ったこと）が言える。

- ⑤ 話された内容や聴いたことへの自分の考え、思いを伝えられる。


【人権教育の視点】

- ⑥ 仲間が言葉につまったとき、一緒に考えたり、その続きを想像したりする。

- ⑦ 仲間から話を引き出す努力をする。




「聴く」は学習の基本
目と耳と心と頭と表情の
5点セットで聴こう！



☆ポイント☆
心の中でいっぱい「おしゃべり」しよう！
(何でだろう？どこで？もっと知りたい！)

◆「聴く」ことを学習の基盤として大切に取り組んでいる。

◆誰もが確認できるように、ピクトグラムに表し掲示している。

◆児童も教職員も「全員で共通して行う」ことにこだわった。

今津小は、学習の基盤として児童が主体的に取り組むことを目標としており、この7つの聴（キー）は、令和4年度に6年生が中心となってまとめたものです。①話している人の方を向く②聴きながら、心の中でおしゃべりをするなどの聞き方の他、人権教育の視点として、仲間が言葉につまったとき、一緒に考えたり、その続きを想像したりするなどです。教員・児童が根気強く取り組む意識を揃え、継続することを大切にしました。

授業づくり

◆可視化



板書の構造化
学習課題→学びの足跡
→まとめを分かりやすく

◆共有化・焦点化



「七つの聴」を
見えるところに

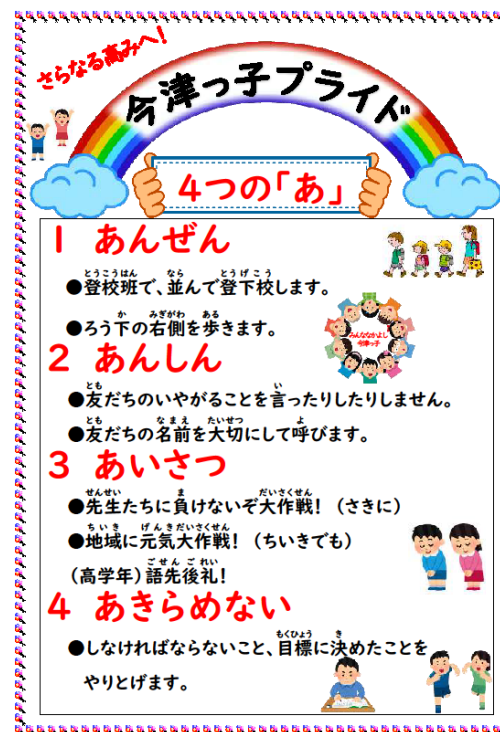
友だちと
意見交換



授業づくりにおいては、可視化・共有化・焦点化を意識して取り組みました。学びの足跡や思考の流れが一目で分かるような板書の構造化、7つの聴（キー）を大切にした言語活動の充実、児童が見通しをもって主体的に学びに向かうことができるように、発問の工夫に取り組みました。

学習環境・土台づくり

- ◆学力・意識調査等の分析と活用
- ◆個別学習の時間「今津っ子タイム」の充実
- ◆学習環境の整備
 - 揃える・・・机上の学習用具、靴箱の靴等
- ◆充実した学級経営
- ◆学習規律の定着
- ◆読書活動の推進
- ◆家庭学習の定着
- ◆生活リズムの安定
- ◆児童による行動目標設定「今津っ子プライド」



その他、学習環境・土台づくりに力を入れました。学力調査・意識調査等の分析と活用、複数体制で個別指導を行う今津っ子タイムの充実、学習環境を整備し児童が落ち着いて学習に取り組めるようにしました。また、児童による話し合いにおいて行動目標「今津っ子プライド」を設定しました。4つの「あ」を掲げ、毎月の生活目標の中に位置づけて確実な実践につながるようにしました。

大切にしたことは・・・

全教職員が、同僚性・協働性を高め共通実践したこと

成果（全国学力・学習状況調査、熊本県学力・学習状況調査）

R6 県学調（平均正答率 県との比較）

	現6年	現中1年
国語	+7.2	+0.2
算数	+14.9	+6.8

R7 全学調（平均正答率 県、国との比較）6年対象

	県	国
国語	+10	+9.2
算数	+14	+11
理科	+4	+3.9

R7全学調における重点指標（県との比較）

質問項目		県
重点指標1（進んで取り組む）		+17.8
重点指標2（工夫して発表する）		+10
重点指標3（よく分かる）	国語	+8.2
	算数	+17.1
	理科	+2.8

いろいろな取組において大切にしたことは、全職員が同僚性や協働性を高め共通実践したことです。取組の結果、県学力調査や全国学力調査において、少しずつ成果が現れています。今後も、児童一人一人を大切にした学習指導に取り組んでいきます。

地域とICTで育む「探究する学び」

天草市立御所浦中学校教職員一同

16人

活動年数：2年

「探究」へき地離島の小規模校、地域の特性を活かした教育

離島に勤務する御所浦中職員が大切にしている2つの心（言葉）から

1 地理的なへき地はあっても 教育にへき地はあってはならない

取組① 生徒が学びの主体となる探究的な授業の実践
へき地の離島でも、質の高い授業で自律した学習者を育てたい！

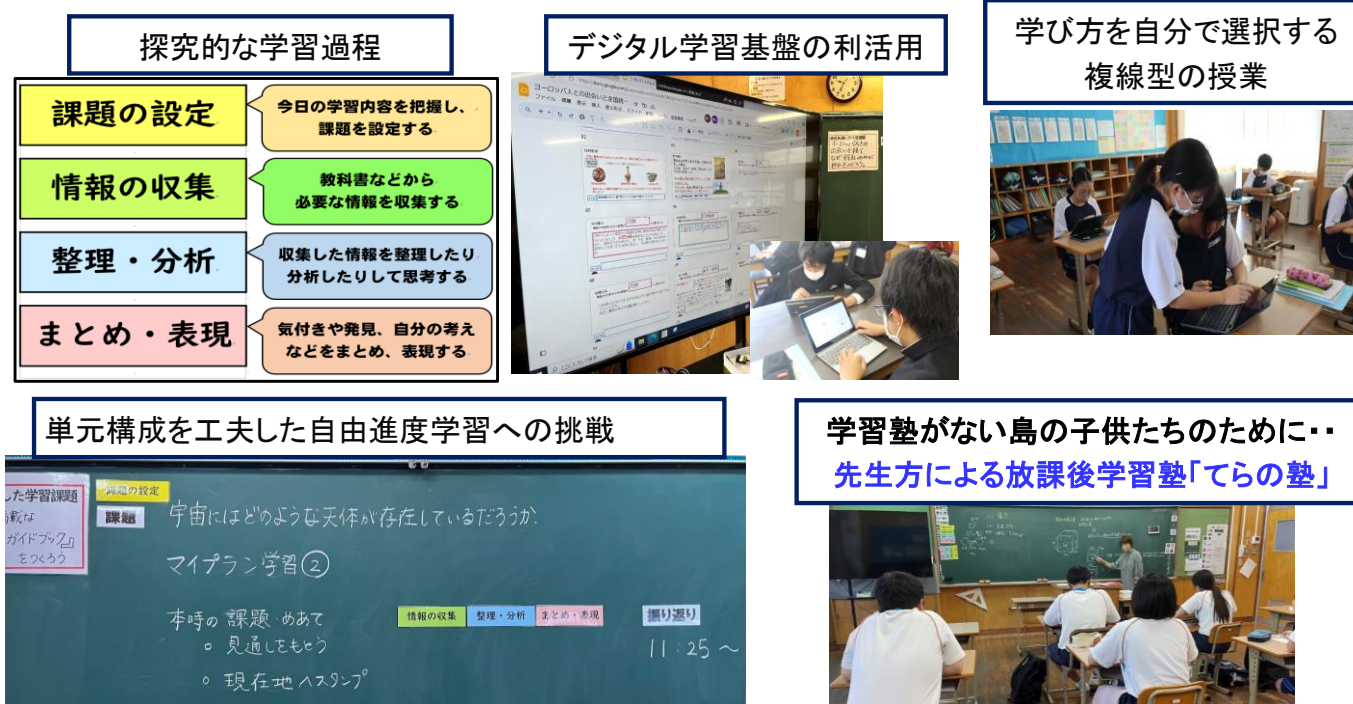
2 この島になにを学び この島の子らに なにを残すか

取組② 探究的に学ぶ「総合的な学習の時間」の創造
生徒を地域へ出して、地域を教材にした探究をとおして、郷土を愛する心や情報活用能力、課題解決能力を育てたい！

2

御所浦中教職員は、「地理的なへき地はあっても教育にへき地はあってはならない。」「この島に何を学び、この島の子らに何を残すか。」という言葉大切に教育に取り組んでいます。

取組① 生徒が学びの主体となる探究的な授業の実践(ICTの活用)



3

取組①は、生徒が学びの主体となる探究的な授業実践です。先生に教わるのではなく、生徒が自分で課題を立てて追究していく授業を多く取り入れ、自律した学習者の育成を図っています。この学びにはICTの活用が不可欠であり、端末とクラウド環境により他の人の意見を即時に見て、それに対してすぐに意見交流することが実現できています。

取組② 探究的に学ぶ「総合的な学習の時間」の創造



取組②は、総合的な学習の時間の創造です。日常の暮らしや身の回りの問題から、解決すべき課題を設定し、実体験を含めた様々な手法で情報を収集整理し、分析して自らの考えを発表したりする探究学習です。特徴は、一人一課題の個人探求であること、教員がゼミ形式で個人探究を手助けしていること、地域資源を最大限活用していることにあります。

取組の成果の一例

地元企業とコラボした協業
「ごしょろーる」商品開発



1年間でおよそ
3000個を売り
上げる大好評

R7.4 文科省広報誌「ミラメク」に本校の授業風景が紹介



全校生徒34人
学校が楽しい 100% (R7. 7. 1最新)

地元を盛り上げたいという生徒達の思いから、生徒会と地元企業との協業で「ごしょろーる」というスイーツ商品を開発しました。1年間で三千個以上売り上げています。また、今年4月、文科省広報誌「ミラメク」にICTを活用した本校の授業風景が掲載され、全国に発信されました。生徒アンケートでは「学校が楽しい」と回答した生徒が100%、教職員にとって最も嬉しいことです。